

## [さとうきび]

### 1 作付の概要

さとうきびの 2013/2014 年期における鹿児島県の収穫面積は 9,372ha で、前年に比べて 625ha の減少となった。作型構成は、夏植えが 12%、春植えが 20%、株出しが 68%となっており、株出しの割合が増加している。品種構成では、NiF8 が全体の 52%を占め、Ni22 および Ni23 が各 18%となっており、シェアをのびしている。

島ごとに見ると、種子島では株出しが 72%と多く、品種は NiF8 が 78%、Ni22 が 16%となっている。奄美大島では、株出しが 62%であり、Ni22 が 46%、Ni17 が 22%となっている。喜界島では、株出しが 57%であり、NiF8 が 51%、Ni23 が 24%、Ni22 が 8%となっている。徳之島では、株出しが 71%であり、NiF8 が 49%、Ni23 が 26%、Ni22 が 12%となっている。沖永良部島では、株出しが 59%であり、Ni22 が 44%、NiF8 が 43%となっている。与論島では、株出しが 87%であり、Ni23 が 77%を占めている。

沖縄県の収穫面積は 12,535ha で、前年より 461ha 減少した。沖縄県での作型構成は、夏植えが 38%、春植えが 10%、株出しが 52%となっている。特に株出し面積の増加が顕著であり、前年より 812ha 増加している。品種構成では、Ni27 が 24%と最も多く、Ni21 が 14%、Ni15 が 11%、NiF8 が 10%となった。宮古向けの Ni27 の普及が顕著である。

地域別では、沖縄地域（周辺離島も含む）では、株出しが 73%と多く、品種は Ni21 が 19%を占め、次に NiF8 や Ni15 となっている。宮古地域は株出しが 34%と急増している。Ni27 が 50%と急速に普及しており、Ni21 がそれに続く。八重山地域も株出しが 31%に増加し、Ni15 の 38%、次に Ni27 の 17%となっており、品種構成が変化している。

### 2 作柄の状況

鹿児島県では、与論島や沖永良部では干ばつや台風の被害が大きく、単収は 5.4t/10a と平年比 92%となった。一方で糖度は高く、平均糖度は 14 度であった。

沖縄県では、本島や周辺離島での干ばつ被害に加えて、台風の接近が多い年であった。特に 10 月に大東島と宮古島に接近した台風の被害が大きく、単収は 5.4t/10a と低い水準となった。糖度は平年並みの 14.4 度であった。

2013/2014年期の鹿児島、沖縄両県のサトウキビ生産実績

県別	年次	農家戸数 (戸)	収穫面積 (ha)	単収 (kg/10a)	収穫量 (ton)	甘蔗糖度 (%)	産糖量* (ton)	歩留り** (%)
鹿児島	13/14	8,453	9,372	5,421	508,037	13.96	61,107	12.03
	対前年比	95.5	93.7	125.5	117.6	102.2	117.0	99.5
沖縄	13/14	15,557	12,535	5,447	682,794	14.4	81,679	11.96
	対前年比	94.6	96.5	104.8	101.1	100.7	98.1	97.0
両県合計	13/14	24,010	21,907	10,868	1,190,831	28.4	142,786	24.0
	対前年比	94.9	95.3	114.2	107.6	101.4	105.4	98.2

\*:含蜜糖を含む生産量

\*\* :分蜜糖のみの歩留り

平成25/26年 期 さとうきび及びびん糖生産実績(鹿児島県、沖縄県)より抜粋、編集。